

静岡 DCAT 活動報告

6月4日、藤枝市の特養愛華の郷様の防災委員会を見学させて頂きました。愛華の郷では、職員7名で防災委員会を組織していて、DCAT登録員谷山さんが防災委員長です。今回は8月に行う施設内職員対象の防災訓練で移送支援用具の紹介と体験をするための事前学習として、

使い方を練習しました。近隣の特養第2開寿園様から移送支援用具を借りて実施しました。また、第2開寿園のDCAT登録員曾根さんも見学に同行し、使用方法について助言をしてくださいました。DCAT所属施設の相互交流の取組の1例として様子をご紹介します。



水害により施設1階が浸水し、利用者を2階に移送する想定で体験しています。実際に、非常階段を昇降してみて、移送する職員の配置や向き、持ち手の位置など様々な意見が出ていました。頭の位置を持つ人はどちらを向いて進む方が楽なのか、夜間ではこれだけの職員はいない場合どうすればよいか、ベルカよりも階段を引きずって降ろすタイプの方が人は少なくて済むのではないか、といった様な意見が挙がっていました。体験するからこそ出てくる意見を交わすことは、施設として対策を講じるきっかけとなり、大切なことです。



JINRIKI は、坂道で車イスを押した時と引いた時の負担の違いを体験しています。取り付けが可能な車イスについて曾根さんが説明してくれました。



レスキューボードでの移送、道具が何もないときの人手による搬送方法も体験しています。人による搬送では、運ぶ人への負担が大きく、長くは搬送できないことがわかりました。移送対象者を施設の御利用者を想定しているため、委員の皆さんから出てくる感想や意見からは真剣さが伝わってきました。



用具を体験した後に、今後の訓練について打合せと確認をしています。他施設の職員が見学させていただくことで、自施設での訓練内容との違いや相互の工夫点を確認することができ、自施設の訓練に活かすことができます。職員間の伝達をどうするのか、といった議論では、曾根さんから「うちではインカムを使用しているので職員間の伝達がとてもスムーズになった」と助言がありました。右側の写真では、今後の訓練のイメージを持つために、過去の大規模訓練のビデオをみてイメージを持たせています。説明しているのは、愛華の郷 DCAT 石川さんです。



愛華の郷では、法人独自に新潟県の特養施設と災害時の相互応援協定を締結していて、昨年度には新潟に向いて合同訓練を実施したそうです。今年は10月に愛華の郷で新潟県の施設から応援を受入れる訓練を実施するそうです。その訓練に合わせて、地域住民も含めた福祉避難所開設訓練も実施予定とのこと。